



シュノンソー城より眺めたロワール渓谷（フランス）



「がん診療連携センターについて」

センター長 長岡真希夫

「がん診療連携センター」が、当院でも今年（2008年）の4月に開設されたのをご存知ですか。そのセンター長に私が任命されました。

日本の3大死因は1)悪性新生物2)心疾患3)脳血管疾患ですが、そのなかでも（平成17年の厚生労働省の統計によると）がんによる死亡が30.1%を占め、これは3人に1人はがんでなくなっていることになり、ダントツの1位となっています。このため、政府は「がん対策基本法」を2006年6月に制定し、2007年4月より施行しました。

この法律にしたがって、国や自治体は「がん対策推進基本計画」を作成し、「がん対策推進協議会」を設置しました。また、各都道府県に1カ所「都道府県がん診療連携拠点病院」を配置し（和歌山県では県立医科大学病院）、2次医療圏に1カ所「地域がん診療連携拠点病院」を配置するようにしました。この「地域がん診療連携拠点病院」に紀南病院も申請し、2006年に指定されたのです。（田辺医療圏では、南和歌山医療センターも「地域がん診療連携拠点病院」に指定されています。）

「がん対策基本法」の目的は、1)がん予防および早期発見の推進2)がん医療の均てん化の推進等3)研究の推進等を3本柱としています。

つまり、東京の国立がんセンターで受けるのと同じ「がん治療」が、全国津々浦々、この田辺でも受けられるようにするというものです。

紀南病院としても「地域がん診療連携拠点病院」としての使命を果たすべく、「がん診療連携センター」を作って、最良、最善のがん治療を提供しようというわけです。この「地域がん診療連携拠点病院の指定要件」が非常に厳しく大変なのですが、外来化学療法室をつくり、当院における化学療法の標準化をはかり、緩和ケアチームを立ち上げ、病病連携・病診連携を強化すると共に、院内がん登録を整備し、相談支援センターを設置し情報の提供につとめています。これらすべてが「がん診療連携センター」の仕事なのです。現在、がんにかかわる多くのスタッフが努力して、きちんとした体制をつくっている段階です。

今後の「がん診療連携センター」の活躍に期待してください。



築瀬 能三

医療の現場から ～整形外科～

平成20年7月より紀南病院整形外科でお世話になっております。出身は和歌山市です。福井医科大学を昭和62年に卒業し、和歌山県立医科大学整形外科学教室に入局し、2年の研修医の後、平成元年に和歌山県立医科大学整形外科学大学院へ入学しました。大学院では病理学教室で研究させて頂きました。平成5年に大学院を卒業し、橋本市民病院、有田市立病院に勤務、さらに平成10年からの10年間の大学勤務を卒業し、平成20年7月より紀南病院整形外科に赴任させて頂きました。

整形外科は広く運動器を扱いますが、中でも関節外科に興味を持ち、肩の関節鏡視下手術、股関節、膝関節疾患を専門分野としております。運動器に異常を来すと、痛みや変形、筋力低下や関節運動の可動域の制限、しびれなどにより、仕事やスポーツ、趣味などの社会生活の制限、日常生活の不自由など様々な問題が発生します。運動器の異常を来す原因としては先天的な要因、スポーツによる疲労や外傷、仕事での酷使、怪我(外傷)や老化現象など、人によって様々です。年齢や仕事、家庭環境、病気の状態などを考慮し、教科書的な画一的な治療ではなく、それぞれの患者様に応じたオーダーメイドの治療を心がけて、患者様の満足感の得られる治療を理想に出来ればと思います。

整形外科疾患の治療はリハビリテーションが非常に重要で、運動療法、理学療法、装具療法や薬物療法を行い、多くの患者様に効果が得られます。しかし、症状の改善が得られず、あるいは不十分な方には手術療法が選択されます。手術療法では、低侵襲手術を積極的に取り入れ、肩関節の関節鏡視下手術、股関節の小切開での人工関節置換術、膝の人工関節手術、各種骨切り術などを行います。特に、関節鏡視下手術は、4ミリの関節鏡を用いて病変部をモニターに拡大して観察し、正確な診断と解剖学的修復に非常に有用で、この不思議な世界に興味を持っております。このような手術の低侵襲化により、術後疼痛の軽減、早期リハビリテーションが可能となり、早期社会復帰が可能となります。

田辺地区は農業、林業、漁業などに従事する方が多く、従って運動器に問題を抱えている患者様が多いと思いますので、地域医療に少しでも貢献できればと思います。寺尾副院長の指導のもと、気持ちを新たに頑張ろうと思います。今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

“行動制限最小化看護”

～認定看護師紹介～

『スタートライン』

第7病棟 小森 晃



私は、平成20年4月1日付で「行動制限最小化看護」の認定看護師となりました。精神科認定看護師制度は日本精神科看護技術協会によって、精神科の看護領域においてすぐれた看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる看護師を社会に送り出すことにより看護現場における看護のケアの質の向上をはかることを目的として1995年に創設されました。この認定看護師の専門領域は全部で10領域あります。行動制限とは、精神科医療における治療法の一つですが、それと同時に行動制限によって患者様の人権を侵害してしまう部分もあります。そのため、行動制限は必要最低限であることが絶対的な条件となります。私は認定看護師として、患者様の人権

尊重を大切に考え、人権と医療のバランスを常に検討しながら行動制限の最小化に向けて取り組みたいと思います。もちろん、私は認定看護師という一つの「スタートライン」に立ったばかりでありますので、まだまだ力不足です。今後も病院のスタッフの皆様のご協力をいただきながら、利用者様やそのご家族様、地域に貢献できるよう一生懸命頑張っていきたいと思っております。

最後に、認定看護師になるまでサポートしていただいた病院や病棟スタッフの皆様、同じ道を歩んでいる同志の皆様に、深くお礼を申し上げます。これからもよろしくお願いいたします。

Southern Cross

地域医療連携室便り



本年8月に「サザンクロス」リニューアル創刊号が発刊され、おめでとうございます。
私は、昭和51年から平成2年まで紀南病院に勤務し、平成3年から上富田町で開業
しています。とうとう人生の半分以上を紀南で生活することになりました。

院内情報誌としての旧「サザンクロス」では勤務医時代に一緒にさせて頂いた紀南病
院職員の方々の動向を具さに知ることができ、毎回楽しく拝読させて頂きました。と
同時に、ただ自分の年を考えれば当然のことなのですが、定年退職された職員の方の
挨拶文を目にする時は大変淋しい思いも致しました。

創刊号の“地域医療連携だより”の過去6年の紀南病院の「紹介患者件数及び紹
介率」では、平成19年度の紹介患者が10304人で、その内連携室紹介患者数が

4612人(率で45%)となっていました。その数の多さと、連携室紹介率が高率なのには驚かされました。私の診療所も
紀南病院に多数の患者さんを紹介させて頂いてますが、連携室への紹介割合はといえば平成14年度(13%)並なので
大変気恥ずかしく思っています。患者さんの利便性と病院の外来担当の先生のご負担を考えれば、もっと連携室紹介割合
を増やさねばと猛省している所であります。

病診連携は厚労省の診療報酬加算等の政策誘導があったものの、そのこととは関係なく紀南地方では円滑な病診連携
がとれているのではないのでしょうか。言うまでもなく病診連携は病院と病診療所の紹介・逆紹介を目的と
した診療協力体制であります。円滑な病診連携は患者さんの在院日数の短縮にも繋がっているものと思
います。



西本内科

第5次医療法改正では、4疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病)5事業(救急医療、災害時医療、へき地医療、周産期医療、小児医療)ごとの医療連携体制を求めています。これからは当地方でも一人の患者さんの急性期・回復期・維持期を地域の医療機関が連携し継続的な医療を提供していく地域医療連携体制が必要となります。

これを受けて田辺医療圏では急性心筋梗塞に対するPCI施行後地域医療連携パスの作成に向かった検討会がスタートしたと聞きました。このようなパスが出来れば、従来の病診連携以上に患者さん

の在院日数は短縮され、回復期退院の患者さんが増えることが予想されます。

開業医(私だけかも知れませんが)は自分の専門以外の分野の患者さんの診療には、どうしても不安を感じます。又回復期で、きめ細かい診療が必要な患者さんとなれば更にその不安が募ります。しかし、一方でクリティカルパスをうまく運用すれば、自分の専門外の疾病に対しても、そのような不安をいなく診療できるとも言われています。何卒そのようなパスに仕上げさせて頂き、多くの開業医の参加可能な地域医療連携体制の構築をめざして頂ければと思います。

サザンクロス編集後記の、どこかのお寺に書かれていた「一つの言葉にけんかして……」を読ませて頂き感銘しました。これからも一つの言葉の大切さを肝に銘じて、診療にあたらねばと思いました。

最後に「サザンクロス」がリニューアルを機に、今後更にすばらしい院内外広報誌として発展されますこと、そして紀南病院、地域医療連携室の益々の御活躍、御発展を祈念し、私のとりとめもない拙稿を終らせて頂きます。



西本内科 西本 英一郎



症例数紹介！！

心臓血管外科

当院心臓血管外科のバイパス手術と弁膜症手術の治療成績が、読売新聞「病院の実力」欄で紹介され、当院心臓血管外科の技術レベルの高さが実証されました。



平成20年4月6日の読売新聞和歌山版に、和歌山県、大阪府及び奈良県の主な医療機関の心臓外科手術のバイパス手術及び弁膜症手術の治療成績(2006年度実績)が報道されました。その中に、当院心臓血管外科の治療成績も掲載されています。

一般的にバイパス手術においては、人工心肺を使う手術よりもそれを使わない手術(OPCAB)、弁膜症手術においては、弁置換術よりも弁形成術の方が技術的難易度は高い。当院は、まず弁膜症手術では56件中15件が弁形成術であり、バイパス手術に至っては38件中37件(97%)がOPCABでした。また、死亡率も弁膜症手術では当院は2.4%で全国平均は3.7%よりも好成績であり、OPCABでは死亡率0%を達成しています。この成績は県内や近畿の有名病院にも肩を並べており、当院の医療水準の高さが改めて実証されたといえるでしょう。

これからも、より良い医療を提供していきますので、よろしくお願いいたします。

病院の実力「心臓外科手術」

医療機関別2006年治療実績

病院名	総件数	バイパス手術		弁膜症手術			
		件数()は オフポンプ	死亡率	弁置換	弁形成	死亡率	
和歌山県	紀南病院	108	38(37)	0.0	41	15	2.5
	A病院	233	74(44)	0.0	60	23	2.7
	B病院	129					
大阪府	A病院	374	223(143)	1.3	48	36	0.0
	B病院	150	49(13)	0.0	40	7	2.1
	C病院	111	12(4)	0.0	28	27	0.0
	D病院	107					
	E病院	84					
	F病院	56					
奈良県	A病院	177	33(18)	0.0	50	18	2.9
	B病院	84					

H20.4.6 読売新聞掲載記事より



無財の七施

病院長 山本 忠生

先日、がん患者やその家族の精神状態に対する心のケアについての講演がありました。そこではがん患者の3大精神症状(適応障害、うつ病、せん妄)についての解説と、患者、遺族の全人的、包括的ケアにつき述べられました。全人的な評価はがん患者に限らずすべての患者に必要です。予期せぬ病魔に襲われ、不治の病を持った患者、家族を亡くした遺族の心は、理性や常識から逸脱しやすいということを認めないと医療従事者のストレスはたまる一方となります。

「医療に対するクレームが増え、医療従事者のストレスが増加している」と東京未来大学の春日武彦さんは警告しています。お金を払う患者は消費者で、お金を受け取る病院はサービスを提供するのが当然と考えるようになったのも一因です。クレームの中には言いがかりとしか思えないような理不尽なものもあり、時には大声、暴力で診療行為の妨げとなることもあります。春日さんによれば、「何も悪いことをしていないのにどうして私だけがこんな目に遭わなければならないのか」と思う患者や家族は、医療従事者の些細な行為に「わだかまり」を持ち、突然怒りを爆発させます。

物事の判断の基準が、損か得か、早いか遅いか、強いか弱いか、の両極端に分かれ社会全体のストレスに対する許容レベルが低下しているように思います。人と人との関係が希薄になり、お互いの行動を推し量る関係がなくなり、「ちょっとそれはまずいのと違う」と注意する人がなくなったためでしょう。

どのような医療行為でも100%安全ではないという医療従事者の認識を一般市民が理解するのは難しいのですが、医療従事者の示す態度に対する市民の不満は、誰もが実行可能な「無財の七施」が解決の糸口になります。七施とは、慈しみに満ちた優しいまなざしで接する「眼施(げんせ)」、なごやかで穏やかな顔つきで物事に接する「和顔施(わけんせ)」、優しい言葉、思いやりのある態度で接する「愛語施(あいごせ)」、自ら進んで他のために尽くす「身施(しんせ)」、喜び悲しみを自分のものとして共感する「心施(しんせ)」、疲れていても自分の席を喜んで譲る「牀座施(しょうざせ)」、自分がぬれても雨露をしのぐ場所を提供する「房舎施(ぼうしゃせ)」の七つの行為です。無財の七施は人に対する思いやりの大切さを教えているのです。

春日武彦:医療従事者のストレス、スクエアNo.550、p8~11、2008

所 昭宏:がん患者医療における心の痛み~サイコソコロジ-の視点より~、第15回金曜学術講演

看護学校だより

当校では、今年も第32回学校祭を開催します。今年のテーマは「ふれあい広場」です。学校祭を通して学生と地域の皆様と交流が持て、笑顔でふれあうことができればと思っています。

クラス発表は自分たちで考え作成したものを発表します。テーマは下記をご覧ください。3学年合同で行う「手浴」は、日ごろの疲れを癒していただくために音楽や数種類の香りがする温かい湯に手をつけ、軽くマッサージをします。

その他毎年恒例の催しもあります。お子様から高齢者の皆様に楽しんでいただき、また学生も共に楽しみながら皆様とふれあうひと時が送れればと願っています。

第32回学生自治会 会長 横山 司

第32回

学校祭 ふれあい広場

地域のかたがたとふれあい、人と人とのつながりを大切にしよう！！

11月21日(金)・22日(土)
AM 9:00～PM 3:00まで
社会保険紀南看護専門学校にて

★検査

身長/体重/腹囲/血圧/脈拍/BMI値
視力/握力/尿検査

★クラス発表

32回生 「知ることが健康になる第一歩」
33回生 「家庭でできる看護・小さな工夫で優しい看護」
34回生 「アロマで癒しの空間をあなたに」

★展示即売

・手作り作品・ハモニティのラスク・野菜・花・その他

★模擬店

・フライドポテト・フランクフルト・ホットケーキ・うどん
・味噌汁・あげダコ・おにぎり・おでん・コーヒー・紅茶・抹茶

★手浴

★スタンプラリー (景品あり)

★献血 11月21日(金)

9:30～12:00 13:00～16:00

オーシティー様3階駐車場前

★骨髄バンクの登録 11月21日(金)

10:00～12:00 13:00～15:00

オーシティー様3階駐車場前

問い合わせ先 TEL 0739-22-1592

皆様のご来校をお待ちしています！！

Southern Cross

病院のまど

9月6日 集団救急受入訓練実施

「高速道路で大規模交通事故発生！被災者多数」という想定で、田辺市消防本部と合同救急受入訓練を実施しました。実戦さながらの状況設定で、受入準備に始まり2次トリアージ、緊急時のカルテ作成等、とても有意義な訓練が出来ました。



講演会情報

《市民健康講座開催》



第13回(平成20年7月13日(日)午後1時より)及び第14回(平成20年9月

28日(日)午後2時より)市民健康講座がそれぞれ開催されました。

テーマは、第13回が「お薬の知識と正しい使い方～医薬品と健康食品の違い～」で、講師は当病院の那須明弘薬剤部長でした。身振り手振りを交えたわかりやすい話口調がとても好評でした。第14回は、歯科口腔外科領域に関する初めての講演で、「顎関節症」がテーマでした。当病院に長年勤務されている大亦哲司歯科・口腔外科部長が講師を担当し、予防方法の一つとして肩の伸びの簡単な体操を紹介し、皆様熱心に身体を動かされていました。また、テーマが若い女性に多い疾患でもあったせいか、いつもより20代の女性が多く参加しておられました。どちらの講座も、大変盛況で私達の予想を上回る参加人数で、確実にこの講座が地域の方々の中に定着してきたと思われます。大変嬉しい限りです。

こころの医療センター文化祭のご案内

夏祭り盆踊り大会報告

8月6日(水)に紀南こころの医療センターで夏祭り盆踊り大会が開催されました。当日雨が予想されていましたが、最後まで降らずに無事終えることができました。今年は例年と違い当センターの中庭で行い、患者さん・ご家族の方にも参加していただき、とても賑わいました。イベントでは普段あまり見れないフラダンスショーが行われ、参加者全員が見入っていました。けがもなく時間通りスムーズにいき、終わられたことが良かったと思います。準備・片付けに携わっていただいた方々、本当にお疲れ様でした。

文化祭のお知らせ

11月10日～14日に当センターで文化祭を予定しています。内容の詳細はこれから決定しますが、展示中心の文化祭を行う予定です。また協力等お願いすることもあります。よろしくお願いいたします。



第15回市民健康講座のお知らせ

現在、日本の死因の第2位は心臓病(狭心症、心筋梗塞)が占めており、日々の不適切な食事や生活習慣が心臓に大きな悪影響を及ぼしています。この機会に毎日働き続ける心臓の事を一緒に考えてみませんか。

日時 平成20年11月9日(sun)

時間 PM2:00～3:00

会場 紀南病院 3階講堂

演題 狭心症と心筋梗塞 ～倒れる前に。予防から治療まで～

演者 奥本泰士(紀南病院循環器科医長)

*参加無料、申込不要です。

編集後記

秋の白良浜ビーチフットボール大会。これまでは自慢の快足で活躍してきた(つもり)。もちろん今日もヒーロー目指してビーチに立つ。さあ、いよいよボールが廻ってきた。絶好のトライチャンスだ。かっこよくガッツポーズしている姿が脳裏によぎる。よっしゃ、今日も自慢の快足でぶっ飛ばすぜ!..えっ?..バスッ、バスッ、バスッ、すっ、進まない。あっさりと女の子に止められてしまった。こんなはずじゃ…。肩を落とす私の脇を、秋風が寂しく吹き抜けていった。男も30半ばになると急激に肉体が衰える。ちょっと運動不足になるだけで、悲しくなるほど一気に体力が落ちる。日頃の運動習慣が大事なことを痛感させられた一日であった。

読者の皆様も、できるだけ運動しましょう。

白草記



社会保険紀南病院

〒646-8588

和歌山県田辺市新庄町 46-70

Tel 0739-22-5000 Fax 0739-26-0925

<http://www.kinan-hp.or.jp>

Southern Cross